

ホーム

ニュース

特集

レポート

コラム

メソッド

催し物案内

News Up Date

最新のニュースはこちらから。

特集
UP DATE

Special Feature

一覧を見る

自治体病院の経営再建



Up Date 2019年10月14日

**新築移転の急性期病院に赴任
辣腕事務局長として経営再建を果たす**



Up Date 2019年10月14日

**自治体病院の経営再建
増患・増収を実現した手法を明かす**



Up Date 2019年10月14日

**自らの経験を広く周知
経営ができる病院事務長の育成を開始**



レポート

2019年10月11日

**回復期医療の最先端をめざす
戸田中央リハビリテーション病院が新築移
転**



検索



ユーザー
ログイン

NEW 新規お申し込みはこちら

購読者専用
メールアドレス新規登録

Back
Number

イベント 催し物案内

- 【12月6日】日本看護サミット2019・日本訪問看護サミット2019
- 【11月28日】第4回経営講座
- 【11月19日】かながわ血液がんフォーラム
- 【11月8日】第18回日本医療経営学会学術集会・総会
- 【10月29日】SSKセミナー
- 【10月27日東京】【11月17日大阪】市民向けシンポジウム「がんの痛みは正しい知識で取る」
- 【10月19日】第34回全国医療法人経営セミナー
- 【10月19日】世古口氏経営改善セミナー

ホーム

ニュース

特集

レポート

コラム

メソッド

催し物案内

トップページ > レポート > 新オープン > 回復期医療の最先端をめざす
戸田中央リハビリテーション病院が新築移転



レポート

回復期医療の最先端をめざす 戸田中央リハビリテーション病院が新築移転



首都圏の1都4県に29の病院、6つの介護老人保健施設など117事業所を展開する戸田中央医科グループ（TMG、中村隆俊会長）の戸田中央リハビリテーション病院（佐藤信也院長）は11月1日、新築・移転し新たにオープンする。10月5日には、多くの招待者を招いた内覧会、竣工式典が開催された。

71床の増床で新築移転

同院は2002年の開院以来18年間、TMG初のリハビリ専門病院として同グループ基幹病院となる戸田中央総合病院の隣接地で地域の回復期医療を担ってきた。この間約9000人の入院患者が利用し、そのうち約9割を在宅復帰につなげてきた。

その一方で、近年では高齢化の進展に伴う回復期医療のニーズの高まりにより、慢性的に入院待機者が増え、その改善が望まれていたという。

今回、回復期病床の整備促進を盛り込んだ「第6次埼玉県地域保健医療計画」に伴う整備計画の公募に増床を申請。71床の増床が許可され、129床から200床へと大幅に増加する新築移転計画が実現した。

回復期医療の最先端を実現

新たにオープンする病院は、地上6階建てで延床面積は従来よりも2.4倍広い8091平方メートル。職員数も医師6人をはじめ、理学療法士59人、作業療法士31名、言語聴覚士28名など総勢302人と従来の1.5倍となり、より手厚い体制となる。

新築された同院は、18年間で培った現場スタッフのアイデアを結集させ、“入院生活のすべてをリハビリテーションとする”ための工夫が各所にちりばめられた。

1階にあるメインのリハビリテーション室は、315平方メートルの広さ。自然光を取り入れた明るい空間は、外部からも可視化された環境でリハビリに取り組める。

また、リハビリ先進国のノルウェーで生まれたエクササイズ器具で、あらゆる状態の患者の筋力トレーニングを可能とする「レッドコード」や、画面に映る脳トレーニングの問題を解きながらエアロバイクをこぐことで有酸素運動と認知機能訓練が同時にできる「コグニバイク」など、最新のリハビリ機器も今回、新たに導入された。



1階にあるメインのリハビリテーション室

レポート

- ▶ レポート
- ▶ 新オープン
- ▶ 政策
- ▶ トレンド
- ▶ 講演・セミナー
- ▶ データ

実生活に近い訓練機器を導入

リハビリテーション室の一角に設けられた、退院後の生活支援を目的としたリハビリを施すADL室には、キッチン、浴槽、洗濯機、トイレなど、実生活に近い訓練が可能な機器や設備を取り入れている。

例えば、トイレについては各家庭の環境を想定し、3方向にドアがあるトイレを製作・設置。ドアの右開き、左開きなども含め、自宅と同じ環境を選んで訓練ができるなど、日常生活で重要度が高い排泄の自立をハード面からサポートする。

また、電動昇降機能付きのIHシステムキッチンは、自宅のキッチンに合わせて高さの調整が可能。さらには洗濯物や布団干しなど、実際の生活を想定したシミュレーションが行えるベランダも室内に設置されている。



自宅の環境に対応する3方向にドアが開くトイレも設置された

各フロアでもリハビリを実施

2階から5階までのフロアにも、それぞれリハビリ室を設置。回復の段階に応じたリハビリに取り組みます。また、6階の屋上部分には、コンクリートや砂利道、スロープなどを設け、日常生活に即した路面歩行訓練を実施できる。さらに、備え付けの花壇では草花や野菜などの栽培を楽しみながら、患者の心のリハビリ効果を図っていく。

フロアごとに50床が整備された回復期病棟では、3メートルの廊下幅を確保。ゆったりとした空間が演出された回廊式の廊下で、気軽に歩行訓練に励むことができる。

また、退院直前の患者の家族を対象に、現状確認や介護体験ができる宿泊可能なADL室も各フロアに配置。在宅医療に移行する際の不安の払しょくに努めている。

県南部に唯一設置されたケアサポートセンター

さらに、「こうあればいい」というリハビリのニーズにすべて応えた同院では、今回の新築移転を機に、2016年より埼玉県から指定を受けて運営している「地域リハビリテーション・ケアサポートセンター」の専有事務所も設置。

埼玉県南部に唯一設置されたケアサポートセンターとして、地域ケア会議の支援、地域の専門職向けの研修への講師派遣などを通じ、引き続き、介護予防のための施策にも取り組んでいくという。

新たに生まれ変わった戸田中央リハビリテーション病院は、これからもTMGが標ぼうする「トータル・ヘルスネットワーク」（住み慣れた地域で医療・介護・保健・福祉サービスを一体的に提供する）の一翼を担う病院として、地域住民に寄り添いながら良質な医療・看護・リハビリテーションの提供に尽力していく意向だ。

<病院概要>

施設名：医療法人社団東光会 戸田中央リハビリテーション病院

住 所：埼玉県戸田市新曽南4-1-29

理事長：中村 毅

病院長：佐藤 信也

診療科：内科、リハビリテーション科

病床数：200床（回復期リハビリテーション病棟）

階数：地上6階建て 敷地面積：5015.18㎡ 延床面積：8091.99㎡

職員数：302人（医師6人、理学療法士59人、作業療法士31人、言語聴覚士28人など）